

研究概要

申請者の所属する 学校名・団体名	京都市立嘉楽中学校
複数校の研究者による 教育研究グループ名	
研究課題 /副題	誰も置き去りにしない持続可能な世界の構築に向けて、あらゆる垣根を越えて協力し、より良い未来に向けて、持続可能な社会の創り手を育成する
研究の目的	本校はこれまで、平成29年から「論理的思考」をテーマに、「社会につながる表現力の育成」に取組んできましたが、さらなる課題解決に向けて、「わが町や世界の諸問題を自分の事として捉え行動していく」ことのできる資質・能力を培いたい。

A. 現状・課題

文部科学省2年に続き京都市教育委員会3年の研究事業の指定を受け「社会につながる表現力の育成」に取り組んできましたが、コロナ禍でフィールドワーク・文化交流・キャリア教育などの制限で、協働学習およびプレゼンテーション力など、道半ばで研究事業を終えてしまい、今回の事業を通して目標に沿った資質・能力を培いたい。

B. 学校情報化の現状

1. 教科指導におけるICT活用	2. 情報教育	3. 校務の情報化	4. 情報化の推進体制
レベル: 2	レベル: 2	レベル: 2	レベル: 2

△コメント

教科指導は勿論、あらゆる教育活動においてGIGA端末を活用した実践計画となっている。最新の機器や学校独自の機材については十分な環境とは言えないが、ごく一般的な情報機器は整っている。

C. 取り組み内容

1. 自分たちの地域の事業所が取り組んでいるSDGsについて調査を行い、課題解決に向けて協働学習を進める。2. 自分たちが住む観光都市「京都」であることを、多くの観光客の方々に利用してもらえるようなプレゼンを作りあげ、令和5年文化庁が京都に移転され、誇れる観光都市の一員として意識付けをしたい。3. NTTドコモ(English 4 Skills)などを用いた研究実践校に選ばれ英語力向上に取組んだ成果を、近隣のインターナショナルスクールとの異文化交流を行う。

D. 定着・普及の方法

△校内研究会の予定

7月…職業体験のレポートおよびプレゼンテーション 10月…各学年における総合的な学習の取組発表会

△公開研究会、学会発表等の予定

10月…総合的な学習の発表会

E. 成果目標・取り組み後の状況

探究的な学習を通して、課題の解決や目標達成のためにあらゆる角度と目線で工夫しながら、主体的に取り組み他者と協働する力や地域と協働・連携して活動することで、自分事として捉え、社会に貢献しようとする態度の育成を図る。そして、本校の活動が地域に伝わり、その活動が事業所や地域の方々に応援して頂くことで、子どもたちが町づくりの一人として貢献させたい。

F. 研究者や他校のアドバイス

長年にわたりプラッシュアップとスクラップ＆ビルドを教職員が協働体制で取り組まれていることや、変化する生徒や保護者・地域のニーズに合わせて、時代に沿った形の教育活動を確立していくことに、興味を持って俯瞰していきたいという言葉を頂いた。